

400人 平和願い歩く

国連軍縮週間に呼応 長崎

毎年行われてゐる「市民大行進」が10月30日、長崎市であります。今年は、1972年の開始から50年目となり、核兵器禁止条約発効後、初めての行進です。

「世界平和祈念行事実行委員会」(会長=田上富久市長)の主催。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染予防のため規模を縮小し、市民400人が行進しました。小学生や被爆者5団体のメンバーも

参加し、平和祈念像前(和平公園)から爆心地公園まで、平和の象徴であるハトの形をした風船を手に歩きました。

平和公園での出発式で田上市長は、禁止条約の発効で新しい時代が始まつたと強調し、「核をめぐる状況は複雑だが、長崎市民は」の50年間、世界平和を願い長崎の街を歩き続けてきた。今日もそういう思いを胸に力強く歩いていこう」とあいさつしました。

爆心地公園に到着後、原爆が投下された午前11時2分、全員で黙とうし、秋空にいっせいに風船を飛ばしました。

長崎市立緑が丘中学校の生徒らが考えた「未来のために考え方」で、学び続け、対話し続け、平和のために発信を続けていく」との「市民大行進宣言」を同校の生徒3人が読み上げました。

被爆の語り部をしている田中安次郎さん(79)は歩き終え、「これからも、被爆の実相を子どもたちや多くの人たちに伝えていきたい」と話しました。

風船を手に平和公園を出発する
小学生(=10月30日、長崎市)

